

小学校第3学年 総合的な学習の時間学習指導案

単元名：「熊野町のじまんを伝えよう Part2」

指導者 熊野町立熊野第一小学校 森 航也



- 1 日 時 令和3年11月12日(金) 2校時
- 2 場 所 3年2組教室
- 3 学年・学級 第3学年2組 (30名 男子16名 女子14名)

単元について

本単元は、『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説総合的な学習の時間編』に示されている小学校の総合的な学習の時間で意識されるべき三つの課題の中の「地域や学校の特色に応じた課題」である伝統文化を基に探究課題を設定している。地域の特産である「筆」のよさを伝えていくことを探究の課題として設定し、自分と地域の特産品や人々との関わりについて考え、行動できることを目指して設定した単元である。

本校では、第3学年の『総合的な学習の時間』で、学校・地域・地域の伝統について取り組んでいる。1学期に熊野町の自慢として、熊野第一小学校校歌・黒豆・坊田かずま・熊野町の昔話などについて、調べたことや、聞いたことを新聞にまとめた。その中で、熊野町の特産である熊野筆について、自分たちも知らないことがあることに気付いた。そこで、本単元では、熊野町の熊野筆・筆踊りについて学習を進め、熊野筆をいろいろな方に紹介していく。まず、児童が熊野町に住んでいる方や熊野町外に住んでいる方、呉市立波多見小学校の児童・教職員に「熊野筆」に関するアンケートをとった。そのアンケート結果を教師が集計し、図やグラフにまとめ、提示し、児童がその図やグラフを分析し、課題を見付けることで、児童が主体的に課題解決に取り組むことができるようにする。

どのようなすれば、学校内の人、熊野町の人、熊野町外の人などに効果的に熊野町の自慢を伝えることができるか、思考する場面を設定し、相手意識をもって、児童が主体的・協働的に学び、考えることができるようにする。また、本単元を通して、児童の郷土愛も育てていくことができると考えられる。この単元を通して、調べたり、伝えたりする方法を知り、郷土愛を育み、今後の学習や生活につなげていきたい。

児童の実態

児童は、1学期に、熊野町について調べ学習を行ったり、人から話を聞いたりし、新聞にまとめることをしており、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の探究の学習の過程を経験している。

本学級に、本単元導入前に、総合的な学習の時間に関するアンケートを行った。①「総合的な学習の時間で最も楽しい場面はどの場面ですか。」の問いに39%が情報収集する場面、32%が振り返りをする場面、13%が整理・分析をする場面、10%がまとめ・表現する場面、6%が課題を設定する場面と回答した。課題を設定する場面が楽しいと感じている児童が少なく、自ら課題を設定できていない児童が多くいることが関係していると考えられる。②「新聞作りは、相手に伝える意識をもって作りましたか。」の問いに肯定的な回答をしている児童が13%であった。新聞作りの作業は、ほとんどの児童が意欲的に取り組んでいたが、自分が知ったことをまとめただけで、伝える相手を意識した効果的な発信方法には至っていない。

本学級は、グループ活動は活発的に行うことができ、自分の意見を伝え合うことができる。このことを生かして、児童自ら課題を設定したり、相手意識をしっかりとって効果的な発信方法を考えたりして、いけるように協働的な学びの場を工夫して学習を進めていきたい。

単元の指導および協働的な学びの場の設定について

本単元の「課題の設定」の場面では、1学期に作成・実施した熊野筆・筆踊りについてのアンケートの結果を活用する。自分達で実施したアンケートを集計し、図やグラフにまとめ、提示することで主体的に学習に向き合えるようにする。また、児童が予想していたこととのずれから課題を見付け、自分事として考え、課題を設定することができるようにする。

「情報の収集」の場面では、1学期に学習した、インターネットで調べる、人に話を聞く等の調査方法を想起させ、今回、熊野筆を作っている人の思いや、歴史、筆踊りの踊り方等、必要な情報を集めるために、最適な方法を考えさせ、できるだけたくさんの情報を集められるようにする。

「整理・分析」の場面では、集めた情報を項目ごとに整理していき、課題解決のために本当に必要な情報なのかを考えさせる。図や絵を使って整理させたり分析させたりしていきたい。また、伝える方法をたくさん出させ、それらの方法のメリット・デメリットを考えながら、相手に適した伝える方法をグループごとに選択させる。

「まとめ・表現」の場面では、自分たちが選んだ伝える方法で、まとめさせる。まとめる際、相手意識をもって、相手に分かりやすく伝えるように工夫させる。他学年や他地域と連携を図り、熊野町の人や熊野町外の人に熊野筆のよさを伝える場の設定をする。

協働的な学びの場の設定については、児童が調べたいテーマでグループを作り、児童が主体的に学べるようにする。次に、伝える相手に対して、伝える方法のメリット・デメリットの観点を示し、個人で考える。その後、グループで話し合い、デメリットを解決することはできないかななどを全体で話し合うことで、よりよい方法を見付けさせたい。個人でしっかりと考える時間を確保し、グループで話し合い、全体でさらに考えを深めていくことで、協働的な学びのよさを味わわせたい。

単元の目標と評価規準

【単元の目標】

- 熊野筆、筆踊りのよさを発信するために必要な情報を集め、相手に適した発信方法を選択して伝え、自分と地域の特産品や人々との関わりについて考え、行動しようとすることができる。

【評価規準】

知識・技能 分かる・できる力	思考・判断・表現 自分の考えを表現する力	主体的に学習に取り組む態度	
		協働する力	自分の成長に気付く力
①筆作りや筆踊りの継承に力を注ぐ人々の思いや工夫が分かる。 ②自ら課題を設定し、課題解決に必要な情報を収集・比較・分類するなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。	①相手に応じた情報を発信できるように、情報を整理・分析している。 ②相手意識や目的意識をもって、表現方法を選び、他者に伝えている。	・問題解決に向け、仲間と力を合わせて、目的意識をもって意欲的に取り組んでいる。	・熊野筆や筆踊りの伝統継承のために、自分自身ができることに気付き、気付いたことを伝えていきたいと意欲を見せている。

指導と評価の計画

学習内容『熊野町の自慢を伝えよう』（時数：28 時間）		主たる評価規準
一	<p>課題の設定</p> <p>○熊野筆・筆踊りに関するアンケート結果から課題を見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊野町に住んでいる人は、「熊野町の特産は筆ということ」「筆の生産量は熊野町が日本一ということ」を知っているが、熊野町以外の人には知らない人が多い。 ・筆の作り方や歴史、筆を作る材料については町内の人も知らない人が多い。 ・筆まつりには行ったことがあるが、筆踊りや筆供養については知らない人が多い。 <p>○図やグラフにまとめられたアンケート結果を読み取り、分析し、課題を見付ける。</p> <p>○これからの熊野町がどんな町であって欲しいか、自分達に何ができるか話し合う。</p> <p>○見つけた課題の中で、自分が探究していきたいことを決める。</p>	<p>●<u>分かる・できる力</u></p> <p>②自ら課題を設定し、課題解決に必要な情報を収集・比較・分類するなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。</p> <p>●<u>協働する力</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決に向け、仲間と力を合わせて、目的意識をもって意欲的に取り組んでいる
二	<p>情報の収集</p> <p>○学習の見通しをもち、調査方法を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループを作成し、調べる内容を決める。 ・何を、どうやって調べるのか話し合う。 <p>○熊野筆・筆踊りに関して調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆の里工房に行き、筆の作り方を学ぶ。 ・歴史、筆に対する思いなどを地域の人に聞く。 ・歴史や筆まつり、伝統工芸士について、インターネットで調べる。 ・筆踊りを地域の人に教わる。 ・本で調べる 	<p>●<u>分かる・できる力</u></p> <p>①筆作りや筆踊りの継承に力を注ぐ人々の思いや工夫が分かる。</p> <p>②自ら、課題を設定し、課題解決に必要な情報を収集・比較・分類するなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。</p>
三	<p>整理・分析</p> <p>（本時）伝える方法のメリット・デメリットを話し合う</p> <p>○伝える相手と方法を選択する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝える相手→保護者や地域の方、熊野第一小学校低学年、呉市立波多見小学校の方、熊野町外の方等 ・伝える方法→リーフレット、ポスター、Google Meet、紙芝居、劇、新聞等 <p>○グループに分かれ、熊野筆・筆踊りに関して集めた情報を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を整理し、選択した方法でまとめる。 	<p>●<u>協働する力</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決に向け、仲間と力を合わせて、目的意識をもって意欲的に取り組んでいる。 <p>●<u>自分の考えを表現する力</u></p> <p>①相手に応じた情報を発信できるように、情報を整理・分析している。</p> <p>②相手意識や目的意識をもって、表現方法を選び、他者に伝えている</p>
四	<p>まとめ・表現</p> <p>○熊野筆・筆まつり・筆踊り・筆供養のよさを伝えるために、選択した方法で表現する。</p>	<p>●<u>自分の成長に気付く力</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊野筆や筆踊りの伝統継承のために、自

<ul style="list-style-type: none"> ・呉市立波多見小学校の方に，Meet とポスターで筆作りと筆踊りについて伝える。 ・保護者や地域の方に，ポスターやリーフレット，発表会で伝える。 ・低学年に紙芝居や劇で筆作りや筆おどりについて伝える。 	分自身ができることに気づき，気付いたことを伝えていきたいと意欲を見せている。
--	--

本時の学習（16／28時間）

本時の目標

メリット・デメリットの観点から考え，相手に応じた最適な情報発信の方法を決める話し合いに意欲的に取り組むことができる。

(1) 準備物

メリット・デメリットチャート，ワークシート

(2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項 ◎支援を要する児童への手立て	評価規準 (評価方法)
1 問題を把握し，本時の課題を設定する。		
○前時までの学習を振り返る。		
2 めあてを設定する。		
【めあて】 メリットとデメリットを話し合い，伝える方法を決めることができる。		
○メリット・デメリットを考える際のポイントを確認する。	・メリット・デメリットチャートの活用方法の確認をする。	
★3 グループで話し合う。【協働的な学びの場】		
○前時に，個人でまとめたメリット・デメリットをグループで話し合う。	・メリット・デメリットチャートを活用し，異なる二つの視点で複眼的に見ることができるようにする。 ・本当にそうなのか理由を付けて友達の考えを確かめさせる。	・メリット・デメリットの観点から考え，相手に応じた最適な情報発信の方法を決める話し合いに意欲的に取り組むことができる。 (協働する力)
○デメリットをメリットに変えることはできないかもグループで考えさせる。	◎前時までに，個人でメリット・デメリットを考える時間を確保し，一人ひとりが意見をもって話し合いができるようにする。	
4 全体で意見を交流する。		
○班で，決めた方法と理由を発表する。	・グループで話し合ったことを共有することで，いろいろな意見に触れ，判断した理由が異なる場合があることにも気付かせ，もう一度考え直してもよいこととする。	
○デメリットをメリットに変えることはできないのか全体で考えさせる。		
5 本時の振り返りをする。		

R3第3学年「総合的な学習の時間」単元構想図

